

大学教育学会 2008年度 課題研究集会

統一テーマ：学生の主体的な学びを広げるために

- 主催：大学教育学会 後援：岡山大学
- 日時：平成20年12月6日（土），7日（日）
- 会場：岡山大学 創立五十周年記念館

参加要領

スケジュール

オプション企画

宿泊のご案内

会場・交通案内

問い合わせ

■ お知らせ

- 大学教育学会2008年度課題研究集会は岡山大学で開催致します。多数、ご参加頂きたく御案内申し上げます。
- 本集会開催期間中は岡山市内の宿泊施設が混雑する見込みですので、早めに宿泊の手配をして下さるようお願い致します。

■ 参加要領

1. 課題研究集会参加のお申し込み及び参加費払い込み

課題研究集会に参加される方は、①～③のいずれかの方法で参加登録をお願いいたします。申し込み締め切りは**11月7日（金）**を厳守とします。郵便振替口座への入金も同時にお願いします。

なお、締め切り後にご入金の場合、課題研究集会までに入金を確認できないことがありますので、**ご入金時の郵便振替払込請求書兼受領証を必ずご持参ください。**

参加者は参加者一名につき払込取扱票一枚でご入金ください。領収書は受付でお渡しします。

①FAX：[参加申込み用紙](#)にご記入の上、086-251-8440までご送信ください。

②郵便：[参加申込み用紙](#)にご記入の上、下記までご送付下さい。

〒700-8530 岡山市津島中2-1-1 岡山大学 教育開発センター

橋本研究室気付 課題研究集会実行委員会

③e-mail：[参加申込の各項目を明記の上、タイトルに「課題研究集会」と記して、送信してください。](#)

メールアドレス：secr@cf.d.okayama-u.ac.jp

2. 参加費等

※課題研究集会参加費(『要旨集』を含む) 一般会員：[5,000円](#) 学生会員：[1,000円](#)

非会員も参加費は同額、但し、一日目の特別シンポジウムのみ参加で要旨集を必要としない方は、準参加者として扱い、参加費は無料

※懇親会費(12月6日) 会員・非会員を問わず：[5,000円](#) 学生：[2,000円](#)

※『要旨集』のみ 会員・非会員・学生を問わず：[1,000円](#)

- 非会員の方も参加できます。「参加申込書」のコピー、郵便局備え付けの振込用紙等を御利用になり、上記と同様の手続きをしてください。
- 学部学生や院生の方々が参加しやすいよう、参加費及び懇親会費の割引をしています。会員の皆様におかれま

しては、非会員の学部学生や院生も含め、広く課題研究集会への参加を促していただきますようお願いいたします。また、これを機会に本学会加入呼びかけへのご協力もお願いいたします。

- 当日の参加申込みも可能ですが、準備の都合上、事前手続きに是非ともご協力ください。
- お払い込みの参加費等は、理由を問わず返却いたしません。あらかじめご了承ください。
- 参加費等を払い込みながらご欠席の場合は、後日、『要旨集』をお送りします。
- 課題研究集会当日は、課題研究集会の受付の他、学会事務局の受付も設置し、入会申込み、未納会費納入、会誌バックナンバー・学会出版物の頒布等を行います。

3. 12月7日(日)の昼食

キャンパス内の生協食堂(会場から徒歩3分のピーチユニオン、6分のマスカットユニオンの2か所)が11時から平常営業中です。また大学周辺に若干の食堂やコンビニがございます。このため、例年、手配するような弁当は今回は手配いたしません。各自で御自由におとり下さい。尚、生協は12月6日(土)も平常営業中です。

4. 口座振替

会員の方は、郵便払込取扱票を御利用いただくと便利です。なお、学会の年会費の郵便払込取扱票とは別になっていますので、ご注意ください。

課題研究集会 郵便振替口座

加入者名：大学教育学会2008年度課題研究集会実行委員会

口座番号：01390-0-97964

■ スケジュール

【平成20年12月6日(土)】

受付	12:00～13:00	五十周年記念館・1Fロビー
開会行事	13:00～13:30	五十周年記念館・多目的ホール
特別シンポジウム	13:30～17:30	五十周年記念館・多目的ホール
移動	17:30～18:00	
懇親会	18:00～20:00	リーセントカルチャーホテル

【平成20年12月7日(日)】

受付	9:00～9:30	五十周年記念館・1Fロビー
シンポジウムⅠ	9:30～12:00	五十周年記念館・多目的ホール
シンポジウムⅡ	〃	五十周年記念館・2F大会議室
昼食	12:00～13:15	
シンポジウムⅢ	13:15～15:45	五十周年記念館・多目的ホール
シンポジウムⅣ	〃	五十周年記念館・2F大会議室
閉会行事	15:45～16:00	五十周年記念館・多目的ホール

■シンポジウムⅠ：「学士課程教育の改革へのアプローチをどのように進めるか」

■シンポジウムⅡ：「『大学人』能力開発に向けて ―国立大学の現在―」

■シンポジウムⅢ：「FDのダイナミックス ―FDモデル構築へむけた今後の課題―」

■シンポジウムⅣ：「科学技術リテラシー教育と『学士力』の育成」

※関連行事：常任理事会 12月6日(土)10:00～12:00（創立50周年記念館2F大会議室）

■第1日目：

12:00 受付開始

13:00～13:30 開会行事

学会会長挨拶：寺崎昌男（大学教育学会会長）

開催校挨拶：佐藤豊信（岡山大学教育・学生担当副学長 課題研究集会実行委員長）

13:30～17:30 ◆開催校企画特別シンポジウム：「学生の主体的な学びを広げるために」

今日、大学教育の重心がティーチングからラーニングへと移ることの重要性が説かれ、学生の主体的な学びの必要性が各方面から主張されているが、単なる方向性の提示ではなく、具体的にどうすればよいのか、また、一般の学生たちがこのことを自覚・実感するにはどうすればよいのかは必ずしも明瞭ではない。教員が躍起になっても、学生たちがこれに呼応しなければ実質的な転換にはつながらない。この開催校企画シンポジウムでは、普通の学生の「生の声」を拾い上げながら、大学外の識者の声にも耳を傾け、より多くの学生が主体的な学習に積極的に取り組むための具体的な方策について活発に議論したい。

■シンポジスト・コメンテーターと話題提供演題：

小林 歩美（岡山大学教育学部3年生）「学生からみた学生の主体的学びの実態」（仮）

松本 美奈（読賣新聞東京本社記者）「大学取材から垣間見えた現代学生の主体性」（仮）

荒瀬 克己（京都市立堀川高校校長）「高校生の主体的学びと大学・大学生への期待」（仮）

橋本 勝（岡山大学教育開発センター教授）「主体的な学びへの誘い方・乗せ方」（仮）

コメンテーター：松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）「主体的な学びの原点」（仮）

司会者：小山悦司（倉敷芸術科学大学）、山野井敦徳（くらしき作陽大学）

17:30～18:00 懇親会会場への移動

※徒歩7～8分程度ですが、移動用バスも用意します（17:45発、但し最大27名まで）。

18:00～20:00 懇親会（リーセントカルチャーホテル 3F ホワイトインシグニアの間）

※懇親会場のホテルにそのまま宿泊することも可能です（別紙宿泊案内を御参照下さい）。

■第2日目：

9:00 受付開始

9:30～12:00 シンポジウムⅠ・Ⅱ（2会場同時進行）

◆シンポジウムⅠ：「学士課程教育の改革へのアプローチをどのように進めるか」

日本の学士課程教育は、各大学が自らの教育理念やミッションに基づき、どのような能力やスキルを身につけるかという到達目標を自ら設定することも含め、新たな改革が求められるようになった。これは自らの使命、現在学んでいる学生のニーズや特徴についての現状分析等に基づき、各大学が自らの個性を活かしつつ、学士課程にふさわしい内容を構築していくことが求められるということに他ならない。こうした検討をどのように進めるかについて、国内外の先事例を参考に議論していく

① リベラルアーツ学部・学群(Late Specialization)型中小規模私学

： （大手前大学）

② 大きく入り試・学域型： （金沢大学）

③ 全学部・学科でボトムアップ型で到達目標づくりに取り組む

： （愛媛大学）

司会：濱名 篤（関西国際大学）

コメンテーター：館 昭（桜美林大学）

◆シンポジウムⅡ：「『大学人』能力開発に向けて—国立大学の現在—」（仮）

教職員の別なく大学教育研究を活性化させる活動を行うことが日本の大学の未来を拓くと考える我々研究委員会は、教職員の「協働」を手がかりにして「大学人」としての能力を育てる方策を追求している。従来は独自の建学の理念と伝統を持つ私立大学に見られる先進例を扱ってきたが、今回は国立大学を対象にして現在におけるその努力の実態に触れ、それが持つ独自の可能性を確認したい。私立大学職員が所属大学内で完結した職務を持ち、大学内で異動する人事政策の下に所属の「大学人」となる可能性を持つのに対して、国立大学では幹部職員が大学を超えて異動し、私立大学とは異なる人事政策の中で育成されている。この環境にあって、現状の各国立大学ではどのように「大学人」として所属大学の活性化の核となる人物を育成しているのか、あるいはその道を模索しているのか、そしてそのことが同じく「大学人」たるべき教員の目指す大学の活性化にとってどのような意味と可能性を与えるのか、今回のシンポジウムで検証する。このことは、既にそのような活動を先進的に進めている私立大学にとっても、新たな可能性を発見する機会にもなりえよう。

講師候補：国立大学教員(複数の国立大学勤務経験者)

国立大学職員1

国立大学職員2

国立大学職員3

司会者(案)：佐々木一也(研究委員会代表)

12:00～13:15 昼食休憩（当日は生協も営業中のため弁当は手配しません。）

13:15～15:45 シンポジウムⅢ・Ⅳ（2会場同時進行）

◆シンポジウムⅢ：「FDのダイナミックス —FDモデル構築へむけた今後の課題—」

課題研究「FDのダイナミックス—第一次調査のフォローアップと新たなモデル」に取り組んできたこの3年間は、まさしく大学のFD状況が大きく変化した時期であった。2008年度からのFD法制的義務化により、各大学は、FDに関して何らかの対応をとることを迫られている。80年代より一貫してFDの意義と重要性を主張してきた本学会としては、こうした社会変化を受けて、今何が問題なのか、今後どう展開すべきかといった課題に 대응することを迫られている。

法制化に対して義務を果たすための消極的・定型的FDに終始するのではなく、我々大学人自らが、積極的にその状況を捉えて、実質的なFDを主体的に展開していくことが求められているのである。

本年の大学教育学会ラウンドテーブル（目白大学）において、本課題研究は、各論的に、学生支援、FD研究方法論、FDの評価の観点から、FDの原理的実践的な方向性を探った。

本課題研究の最終年度を迎え、3年にわたる蓄積を踏まえて、アカウンタビリティを果たしつつ、実質的なFDをいかに実現していったらよいかについて、3人の報告者のそれぞれの視点からの総括報告を通じて、いくつかの方向性と課題を提示し、FDの今後の展開、それに向けての学会としてのあり方について、議論を深めるきっかけとしたい。

<報告者>

「FD義務化をどう受け止めるか（仮）」 夏目達也（名古屋大学）

「FDダイナミックス・モデルの形成（仮）」 田中每実（京都大学）

「FDの今後の課題—ダイナミックス研究からの提言（仮）」 絹川正吉（元国際基督教大学学長）

<コメンテータ>

「FDダイナミックス研究の報告を受けて（仮）」 寺崎昌男（立教学院本部調査役）

◆シンポジウムⅣ：「科学技術リテラシー教育と『学士力』の育成」

文系・理系を問わず必要な素養として科学リテラシー教育が注目されている。その内容は、自然界を理解し、人間の活動を通して自然界を変化させることについて自分自身の力で意志決定ができるようにすること、証拠に基づいて結論を導いたり、疑問点を確認したり、科学的な知識を使用したりする能力を持つことなどである。大学レベルの科学技術リテラシー教育では、特に科学の主な概念や構造を理解し、用いることができるようにすることが必要である。その中には科学的探求や広い意味での工学的設計の方法も含まれる。物理学、化学、生物学、地球・宇宙科学などの固有の科学領域と関連させて、「知識」と「スキル」と「態度」の3つの要素を備えた学士力をどのように養成するか、高校と大学の接続、理系学士課程における位置づけをどうするかなどを考察する。

「すべての人のための科学とは何か？」 北原和夫（国際基督教大学）

「大学における普遍的な科学教育の展望」 鈴木久男（北海道大学）

「理工系学士課程カリキュラムの国際比較」 松岡正邦・吉永契一郎（東京農工大学）

司会：秀島武敏（桜美林大学）・小笠原正明（筑波大学）

15:45～16:00 閉会行事

学会長挨拶：次年度大会開催校・課題研究集会校紹介

閉会挨拶：2008年度課題研究集会実行委員会副委員長

橋本 勝(岡山大学教育開発センター)

16:00 閉会

■ オプション企画

◆学生発案授業「大学授業改善論」の参観と意見交換：

2004年度から開始している「大学授業改善論」の1コマを参観し、その後、授業者から説明を受けた上で、意見交換をするものです。（授業担当者は橋本 勝）

課題研究集会前日に参観するもの(タイプA)と課題研究集会翌日に参観するもの(タイプB)がありますが、内容はほぼ同様であり参加者の御都合に合わせていずれかを申し込むことができます。

各タイプ20名以内としてメールで先着順にて受け付けます。どちらのタイプかを明記の上、下記まで御申し込みください。

メールアドレス：vhashi@cc.okayama-u.ac.jp

尚、この授業の受講者の中から希望者30名が課題研究集会の開催校企画シンポジウムに一般学生として参加する予定です。

■タイプA：

12月5日(金) 参観時間 12:40～14:10 一般教育棟 D312

事後解説・意見交換会 14:20～15:30 会場未定

■タイプB：

12月8日(月) 参観時間 08:40～10:10 一般教育棟 D221

事後解説・意見交換会 10:20～11:30 会場未定

■ 宿泊のご案内

岡山大学は岡山市内にあり、宿泊施設が多数ある岡山駅周辺及び市内中心部からバスで10～20分程度です。また、岡山駅からJRの在来線で15分ほど御乗車になりますと倉敷にたどり着けますし、瀬戸大橋周辺や牛窓・日生あたりにお泊り頂くのも一興です。このため、今回は特に宿泊施設の紹介・斡旋は原則として致しません。各自、好みや御予算に合わせて御自由にお取り下さい。

唯一例外的に懇親会場となるリーセントカルチャーホテルだけは、大学に最も近い中規模シティホテルということも考慮し、12月6日(土)宿泊分について、下記の数のみ部屋を確保してあります。但し、この場合も宿泊申

込は各自、電話で行って下さい。「**大学教育学会の関係の宿泊**」である旨を伝えれば割安で利用できるよう手配済みです。尚、公平を期すため、10月6日(月)以降、先着順で満室になるまでお受けするように致します。万一、キャンセルなされる場合も個人対応でお願いします。

■ **リーセントカルチャーホテル** (岡山市学南町1丁目3-2) <http://recent-culture.5star-e.net/>

確保数 シングル 35部屋

ツイン 10部屋

料金：[5,500円/人](#) (和洋バイキングの朝食付)

※ツイン御利用の場合は単純に二人分で11,000円となります。ツインルームのシングル利用の場合の料金についてはホテルにお問い合わせ下さい。

■ **申込み**：ホテルに電話で直接お願いします。尚、当日、一般客もおられるので、必ず、「大学教育学会関係の宿泊」だと伝えて下さい。

T E L : 086-253-2233 フリーダイヤル : 0120-777-501

■ 会場・交通案内

■ 会場

- [岡山大学創立五十周年記念館](#) 〒700-8530 岡山県岡山市津島中1-1-1
[大きな地図で見る](#)
- [リーセントカルチャーホテル](#) 〒700-0011 岡山県岡山市学南町1丁目3-2
[大きな地図で見る](#)

■ 交通案内

- 岡山駅西口から岡電バス「岡山理科大学」行きに乗車、「岡大西門」で下車して徒歩約1分。
[岡電バス時刻表](#)
- [岡山駅西口からの道順と距離](#)
※マウスをドラッグして地図の下方を表示すれば、岡山駅からの道順と距離が詳細に分かります。

■ 問い合わせ

岡山大学・教育開発センター 橋本研究室気付 課題研究集会実行委員会

〒700-8530 岡山県岡山市津島2-1-1

電話：086-251-7626 (橋本研究室)

FAX：086-251-8440 (学務企画課)

e-mail：vhashi@cc.okayama-u.ac.jp (問い合わせ専用) secr@cf.d.okayama-u.ac.jp (申し込み専用)

URL：<http://cf.d.okayama-u.ac.jp/dkg08/>